

氏 名	西 村 路 子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 1 4 号
学位授与年月日	平成 2 1 年 3 月 2 5 日
学位論文題目	中堅看護師の自発的・創造的活動と中間看護管理者 の管理能力との関係

論文内容要旨

※整理番号	118	(ふりがな) 氏名	にしむら みちこ 西村路子
修士論文題目	中堅看護師の自発的・創造的活動と中間看護管理者の管理能力との関係		
<p>(研究目的)概念枠組みに基づき以下に示す4つの経路を検証し、中堅看護師の自発的・創造的活動と中間看護管理者の管理能力との関係を明らかにすることである</p> <p>経路A：中間看護管理者の管理能力と中堅看護師のキャリア・アンカーの関係 経路B：中堅看護師のキャリア・アンカーと中堅看護師の自発的・創造的活動との関係 経路C：中間看護管理者の管理能力と中堅看護師の自発的・創造的活動との関係 経路D：キャリア・アンカー別にみた中間看護管理者の管理能力が中堅看護師の自発的・創造的活動に及ぼす影響</p> <p>(方法) 研究対象は病院に勤務する役職についていない中堅看護師とし、全国600床以上の病院から100施設を無作為に抽出し、看護部長宛てに協力依頼文、研究計画書、研究協力承諾及び中堅看護師協力可能人数記入欄を設けた返信用はがきを送付し、研究の依頼を行った。研究協力の同意が得られた病院の看護部長宛てに研究協力者の人数分の質問紙調査票、倫理的配慮を明記した協力依頼文を一括で郵送し、回収は個別にて投函する方法とした。なお返信をもって同意が得られたとする旨を研究協力依頼文に明記しておいた。本研究における測定用具は、キャリア・アンカーは「キャリア志向自己診断票」を、中間看護管理者の管理能力は「婦長機能評価B」を、自発的・創造的活動は「看護師の自律性」尺度をそれぞれ用いた。留め置き期間は1ヶ月とした。概念枠組みに基づき経路A、経路B、経路Cに対して相関を検証し、経路Dに対して因果を分析した。データの分析には統計解析パッケージソフトSPSS16for WindowsとAmosを使用した。</p> <p>(結果) 研究協力人数は1,191名であり、質問調査票を用いて郵送により回収した。回収数591名、回収率49.6%であり、回収した質問調査票のうち有効回答率は92.4%であった。「管理者の基本的能力」は、主因子法、バリマックス回転による因子分析を行い、3つの因子が抽出され、第1因子を「目標管理・変革能力」、第2因子を「対人的能力」、第3因子を「概念化能力」と命名した。看護師の自発的・創造的活動は、クラスタ分析を行い、3つのクラスタが抽出された。クラスタ1を「ポジション・役割に基づく自律性」、クラスタ2を「個人的な都合に基づく自律性」、クラスタ3を「専門的知識・技術に基づく自律性」と命名した。キャリア・アンカーで最も多かったのは「保障・安定」であった。「管理者の基本的能力」ではすべての次元間で相関がみられたが、自発的・創造的活動の「自律性」では次元間の相関はみられなかった。キャリア・アンカーの次元間には高い相関がみられた。中堅看護師は入職して初めて関わった直属の上司の管理能力のうち「対人的能力」を最も高く評価していた。中堅看護師の自発的・創造的活動の「個人的な都合に基づく自律性」は全般的に低い傾向がみられた。経路AからDの検証では、A「専門職能別コンピタンス」と「目標管理・変革能力」、「概念化能力」のみ相関がみられた。B「ポジション・役割に基づく自律性」と「専門職能別コンピタンス」以外のキャリア・アンカーで相関がみられた。C「目標管理変革能力」と「ポジション・役割に基づく自律性」、「専門的知識・技術に基づく自律性」は負の相関、「対人的能力」と「個人的都合に基づく自律性」、「専門的知識技術に基づく自律性」に負の相関がみられた。D「個人的な都合に基づく自律性」に「概念化能力」と「対人的能力」(負の影響)が影響を及ぼすことが示された。キャリア・アンカーごとに中間看護管理者の管理能力から中堅看護師の自律性への影響が異なる結果を得た。</p> <p>(考察) 田尾(1979)は自律性の適応範囲と制御困難か容易かによって自律性を概念化しており、制御困難で非限定的自律性に質的に変化していくことがプロフェッショナルイゼーションの方向としている。本研究では制御困難とされていた自律性が管理者の管理能力から影響を受けやすいという結果であった。現在行われている管理の方法は、中間看護管理者により看護師を制御し、その管理下で育成する方法を取っており、このことは一定の領域に特定化されない専門職に特有な自律性に变化させる機会を与えていないのではないかと危惧された。変革期の医療現場ではこのままの自律性では対応困難であり、一定の領域に特定化されない自律性へと質的に変化させていくことが看護師の専門職性の課題でもあり、中間看護管理者の課題でもあると考える。</p> <p>(総括) 中間看護管理者は中堅看護師が制御可能となることは看護専門職的自律性において望ましい状態ではないことを念頭におき、専門職的自律性が高められる看護管理の在り方を考えていく必要がある。</p> <p>(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度) 2. ※印の欄には記入しないこと。</p>			